

議会報告会2018

市民と議員の懇談会(第2回)

もっと身近な議会へ
もっと確かな議会へ

を開催



平成30年10月27日、市役所を会場として今年度2回目の議会報告会―市民と議員の懇談会―を開催しました。
参加者が15人と少なかつたものの、活発な意見交換を行うことができました。
貴重な御意見を議会内で話し合つてまとめ、しっかりと執行部に伝え、より良い市政運営に繋がるように努めさせていただきます。

参加者からの 主な意見

- 紙面の構成上、意見は一部を割愛しています。
- ホームページも御覧ください。
- 高齢になると、引きこもりや、近所との小さなトラブルがある。
- シティプロモーションに市はどう取り組んでいるか。

プロジェクトチーム
リーダー 高橋 剣二

意見交換テーマ	地域の課題について シティプロモーションについて 公共施設について 小・中学校の教育について 高齢者福祉について 子育てについて
担当議員	山出 漆持 藤原 基敏 和敏 建志 充太郎 司明 高近 長高 橋 田藤 谷川 高 彦英 清二 劍

- 今後のシティプロモーションは。
- 小・中学校などの修繕を。
- 空き教室で色々なことができな
- 小・中学校が統廃合されたら、空き教室等を障害者や高齢者の集まれる場所に。
- 小・中学校の耐震化の工事は、倒壊の心配はないのか。
- 公共施設の統廃合後の避難場所は。
- 特別支援学級に補助員を増やしてもいい、大変助かった。
- 特別支援学級の先生の研修は、障害児の学習環境の充実を。
- 不登校の原因は、学校が楽しくない、授業が学力中心なのではないか。
- 授業時間の増で、「いじめ」が増えたのではないか。

- 市内小学校のいじめ関連自殺問題はなくなったのか。うやむやにならないようにしっかりと解決を。
- はつらつ元気体操などを市民センターで行っているが、会場が遠い。近くの自治会館などでやってもらいたい。
- 災害時、高齢者をどう助けるのか。
- つるバス・つるワゴンが減便されたのではないか。高齢化の中、バスの便を増やしてもらいたい。
- 高齢者福祉の財源は。
- 耳が不自由であるが、自治会に手話を出る人がいないので、なかなか意思が通じず、会費だけ払えばいいと言われた。自分達も自治会活動に加わりたい。

テーマ外

- 参加者が少ないが、住民の意識が低いわけではない。
- 利益中心のNPO法人が増えてきたので、質の確認を。
- 手話通訳の受講者が少なく、依頼が600件でスタッフが8人しかない。これをどう考えるか。様々な議会でも手話言語条例を議論しているが、本市はどうか。
- 市の業務にAIやIOTなどの積極的な活用を。

会場でのアンケート意見 (一部の紹介)

- ・ 手話言語条例の制定を願う。
- ・ 回数を増やしてほしい。
- ・ 議員との身近な会議を望みます。
- ・ 報告会での要望が実現した例などが分かると参加する意味がある。
- ・ 議員の口コミが参加者増につながるのではないか。
- ・ このような懇談会をやるというのは、大変な英断だと思います。
- ・ 議員の専門化が必要では。



会場全体の様子

- 盲、聾の人達に就労の場を。
- 本市の障害者の雇用率は。